

ラーニング・サポーター ♪ 6月のつばやき -JWUラーニング・コモンズさくらより-

図書館 2 階 JWU ラーニング・コモンズさくら(以下「さくら」と略)では、学科・専攻推薦を受けたラーニング・サポーター(本学大学院生)が学修相談を受け付けます。学修相談以外にもミニ講座の開催や「さくら」の活動支援をしながら、感じたこと、思ったことを「つばやき」、本学学生の皆さんに学修相談に訪れてもらいたいと思っています。ラーニング・サポーターは「さくら」で皆さんをお待ちしています!

<6月のつばやき♪INDEX>

p1 子育ての難しさと面白さ @M.A.(人間発達学専攻(児童)博士課程後期3年) 6月5日 up

p1 6月は食育月間 ~毎月19日は食育の日~ @T.M.(人間発達学専攻(食管)博士課程後期1年) 6月7日 up

つばやき1♪

子育ての難しさと面白さ

世の中には「〇〇な子を育てるために」というタイトルの本がたくさんある。多くの親には育ててほしい子どもの姿がぼんやりとでもあって、いろいろな実践をされているのだと思う。保育も子育てと同じく、育ててほしい子どもの姿を思い浮かべながら、子どもとの関わりを模索する分野だが、保育も子育ても、正解やマニュアルがないということが難しいところだと思う。

先日、「おんなじ子育てをしたつもりなのに、姉妹3人とも全然性格が違うの!」というお母さんの話を聞いた。私は子どもを育てたことはないが弟妹が3人いるので、同じきょうだいなのに互いに理解できない部分があるという感覚はわかる(そっくりだと思ふ部分もたくさんがあるが)。同じ子育てをしたつもりでも、子育てに「絶対」はないのでマニュアル通りにいかず、突然変異の子どもができあがりやすいらしい。4人の子どもを育てた私の母も、全員同じ子育てをしてきたはずと言うが、末っ子の妹だけは突然変異な気がする。中学生になったからではなく、小さい頃から永遠の「反抗期」を生きているというか生粋の「反抗人」?というか…母や祖母を「ババア」と呼び(区別がないので母と祖母のどちらを指しているのかわからない)、私のことは「ぶた」と呼ぶ。この間もニコニコと妹に話しかけたのに「ぶた語わかんねえよ」と言われた。中学生の末っ子らしいと言われればその通りだが、あまりにもキャラ設定が典型的すぎるので、つい笑ってしまう。

きょうだい順位はその人の性格傾向に影響すると言われている。長子は努力家で理想主義、中間子は世渡り上手、末っ子は王様・赤ちゃんらしい。勿論、必ずその性格になるというわけではなく、「きょうだい順位」という「環境」が与える影響は大きいという意味である。つまり、本人が持って生まれた「資質」はありこそすれ、「環境」に影響を受けて人は成長しており、「資質」と「環境」が合わさって一人の人間となっていくと言える。

妹に関しては、どうしてこうなってしまったのか…とはいえ、いい子になって欲しいわけではなくこれからも「面白い」妹でいてほしいと家族みんな思っているのだが、その「子育て」こそ、実は良くないのかもしれない。

つばやき2♪ 6月は食育月間 ~毎月19日は食育の日~

食育月間である6月のつばやきは、「食育」をテーマにお届けします。(管理栄養士専攻の出身で、管理栄養士、栄養教諭専修免許を保有していますので、たまには専門領域の話題を…)

皆さんはご自身の幼少期や小中高生時代を振り返ってみて、ご家庭や学校・地域でどんな「食育」を受けてきたか、印象に残っている出来事はありますか?厳密には「食育」という科目は存在しないため、主に生活科や家庭科の授業を通して、場合によっては学活や総合など他の教科の時間を使って展開されていたかと思います。そしておそらく、教

**人間生活学研究科 人間発達学専攻
博士課程後期4年(児童学)**

- 経歴
本学 家政学部児童学科 卒業
本学 家政学研究科児童学専攻(修士)卒業
- 資格
保育士/幼稚園教諭/小学校教員
- 研究分野
「向社会的行動(思いやり行動)」について研究
幼稚園や小学校にて参与観察を行い、質的分析を行っています

「進路に向けて何をしよう?」
「研究テーマはどうやって決める?」
「教職は大変かな?」など…
気になっていることはありませんか。
ちょっと誰かに話してみたいないうときに
お気軽にお声がけください♪



室で先生の説明を聞くのが中心、というような受動的な授業形式よりも、お芋掘りや農業体験、餅つき大会、家庭科での調理実習、野外学習での飯盒炊飯など、実際に体験や調理・試食をする機会が多く、楽しく授業に参加した思い出がある方も多いのではないかと想像します。

食育として扱う内容は実に幅広く、その実践の仕方も地域や学校によって様々である一方、ほとんどの学校で、日常的かつ継続的に実践されている「食育」があることをご存知でしょうか？

その正体は、学校給食。少し意外に思われるかもしれませんが、食育の現場においては「生きた教材」と形容されるほどです。栄養摂取を目的にした食事としての役割だけでなく、配膳方法や食事マナーを習得し、地域の伝統的な食文化や、食に関わる人々への感謝、食料の生産・流通・消費などを学ぶことができる生きた教材として、食育においても大きな役割を担っています。

実際に毎日給食を食べている児童生徒に「給食は生きた教材だね…」などと説明してもあまり響かないと思いますが（食べ手の関心事と言えば、今日は何のメニューかな～くらいでしょうか）、年を重ね、作り手がどれだけの情熱を注ぎ、緻密な計画・管理の下で作られているのかを知ると、学校給食への見方は大きく変わるはずです。そして、当時は全く特別だなんて思わず、ただ日常の一コマだった給食が、毎日給食を食べていたあの頃が、大人になると懐かしく、とても尊いものに思えてくるのかもしれません。

2023年度ラーニング・サポーター

人間生活学研究科 人間発達学専攻1年

経歴	サポート内容
本学 食物学科 管理栄養士専攻 卒業 食物・栄養学専攻(修士課程) 修了	<ul style="list-style-type: none"> 履修の相談・勉強の進め方 レポート・プレゼン資料の作成方法 臨地実習や教職(栄養教諭)、資格に関する相談 管理栄養士国家試験対策 など
保有資格	
管理栄養士 フードスペシャリスト 栄養教諭専修免許	

皆さまの学生生活のお手伝いができると思います。
ぜひお気軽にお声掛けください。




ラーニング・サポーターのつぶやき (2023年6月)

ホームページ https://lib.jwu.ac.jp/lib/lc_ls.html

編集: JWU ラーニング・commons さくら